

指導資料



鹿児島県総合教育センター

外国語科(英語) 第70号

— 高等学校・特別支援学校対象 —

平成23年10月発行

4技能の統合を図る「読むこと」の指導

今回の学習指導要領の改訂では、習得した知識・技能の活用を通じた思考力・判断力・表現力等の育成が強調されている。このことを踏まえて、外国語科では、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導が求められている。

そこで、本稿では、読んで得た情報について自分の考えなどを発信することまで視野に入れた、4技能の統合を図る「読むこと」の指導について具体的に述べる。

1 4技能の「総合的な育成」と4技能の「統合的な活用」

4技能を「総合的に育成する」とは、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能を「バランスよく育成する」ということである。そのためには、特定の技能に偏った指導にならないことが大切である。

実際のコミュニケーションは、特定の技能のみを活用して行われることはほとんどなく、相手の考えなどを聞いたら、

そのことについて自分の感想や意見を述べるなど、複数の技能を活用して行われる。この複数の技能を有機的に結び付けて活用することが技能の「統合」である。

「読むこと」の指導においても、単に教材の内容を的確に理解するだけでなく、「話すこと」や「書くこと」の技能を統合的に活用して、教材の内容について自分の考えなどを適切に表現することができるように指導することが大切である。

2 4技能の統合を図る「読むこと」の指導の工夫

- (1) 「聞くこと」と統合させた教材の導入
「読むこと」の指導をする際、すぐに教材を読んで内容理解に入るのではなく、「聞くこと」と統合させた教材の導入を行うことができる。

例えば、教師によるオーラル・イントロダクションやオーラル・インタラクションがある。授業で読もうとしている教材の内容について、教師が平易な英語で紹介したり、生徒に色々な質問をしたりする。生徒は教師の英語をメモを取りながら聞いたり、教師の質

問を聞いて答えたりする。このような「聞くこと」と統合させた教材の導入を行えば、その内容に関して生徒が持っている背景知識を活性化させたり、生徒の興味・関心を高めたりすることができる。

(2) 自己表現につながる発問の工夫

教材の内容の的確な理解を促し、その内容について自分の考えなどを表現させるには、教師が行う発問が重要である。そのためには、教師は深い教材研究をもとに、その教材で「どのようなメッセージを読み取らせたいのか」や「読んだ後で何を思考させ、表現させたいのか」を明確にしなければならない。その上で、生徒が教材の内容について深く思考し、その内容について自分の考えなどを表現するような「技能統合」につながる様々な発問を考案する必要がある。以下に内容理解から自己表現活動につながる発問例を示す。

ア 事実を尋ねる発問

生徒が教材に書かれている事実を理解しているかを確認するための発問で、生徒に教材を的確に理解させるための情報の整理につながる。また、英文の表現をそのまま抜き出せば答えとなることから、生徒は容易に英語で答えることができる。しかし、このような発問の場合、生徒は英文の意味を深く考えることなく機械的に答えてしまうことが多く、英文の意味を正しく理解しているかが明確ではないことも多い。

そこで、生徒が英文の意味を正しく理解しているかどうかを確認するためには、以下のように、英文の内容を少し言い換えて発問し、生徒が英文の一部を借用して答えるのではなく、自分の言葉で答えるような状況を作るとよい。

T: What made the little boy's parents relieved?

S: His big smile did.

(教材の英文そのままの答え)



T: Why were the little boy's parents relieved?

S: Because he looked very happy.

イ 生徒の深い思考を促す発問

教材の内容について発展的に考えさせるための発問で、生徒に教材の背後にある主題や行間に隠された筆者の考え方を読み取らせることがねらいである。表面的な内容理解では読み取れないポイントに焦点化することで、推論を促したり、生徒から多様な考え方を引き出したりすることができ、知的好奇心を喚起することにもつながる。

T: Mr.A, what was the boy's dream?

SA: It was to be a police officer.

T: That's right. Then, why do you think he had such a dream?

SA: I think he wanted to protect the people living in his city. (推論)

T: What do you think, Ms.B?

SB: I think he respected his father, who was a good police officer. His father was a hero to him. (推論)

T: Oh, that's interesting. Everyone, please exchange opinions with your partner.

このような生徒の思考を促す発問は、英文の一部が答えとなることはなく、推論や行間に隠されたメッセージを読み取るような深い思考を要するものであり、必ずしも生徒が英語で答えられるとは限らない。そのような場合は、日本語の使用を認め、生徒が答えた内容を教師が生徒とのインタラクションを通して英語で示してやるとよい。

また、英文に新出の文構造や文法事項が含まれていて、生徒にとって理解が難しい場合は、教師がその一部を平易な英語で言い換えたり、大体の意味を日本語で教えたりしてもよい。大切なことは文レベルの意味理解ではなく、教材の主題の的確な理解である。

ウ 表現する活動につながる発問

新学習指導要領では、「読むこと」の指導として、教材の内容理解後に、その内容についての感想や意見等を、「書くこと」や「話すこと」を通じて表現する活動の設定が強調されている。そのためには、教師が、内容理解後にどのような事柄について自己表現させるかをあらかじめ想定した上で、各パートや各パラグラフの内容理解の段階で、その活動の伏線となる発問をすることが重要となる。以下に、その具体例を挙げる。

○題材：臓器移植ドナー登録

○展開

- ① 臓器移植以外に助かる見込みがない難病患者の苦しみ

Q1: What would you do if you were one of the patients?

- ② 臓器移植で健康になった患者の喜び

Q2: Would you register as a donor?

- ③ ドナー登録義務化の主張

Q3: What would you think if one of your family registered as a donor?

【発信する活動】

Are you for or against the idea that everyone should be a donor?

* Q1～Q3のそれぞれの答えが自己表現活動のヒントとなる。

3 4 技能の統合を図る「読むこと」の指導の実際

ここでは、内容理解のために実際の授業で行う発問（「事実を尋ねる発問」は除く）と、「書くこと」を通して自分の考えなどを表現させる指導を示す。

- (1) 教材： *Voyager English Course I*
Lesson3 "Make a Wish"

警察官になる夢を抱いていた少年のクリスは、白血病で入退院を繰り返していた。そのことを伝え聞いた警察官のトミーとフランクの尽力で、クリスが7歳の時に実際に警察官とパトロールする機会を得る。残念ながらクリスはその5日後に亡くなってしまいが、このことがきっかけとなり、「Make-A-Wish 基金」が設立され、クリスと同じように難病に苦しむ子どもたちの夢を叶える援助を続けている。

(2) 発問例

Part 3 本文

Thanks to the Foundation, many sick children got back their will to live, and some of them even got over their illnesses. It all began with Chris' dream. Though it has been a long time since Chris died, his big smile will live on forever.

Q: Why will Chris' big smile live forever?

【発問のねらい】

「クリスが夢を抱き続けたことで基金が設立され、彼と同じように難病に苦しむ子どもたちの夢も今後実現されるようになり、多くの子どもが生きがいを取り戻し、前向きに生きていける」ことに気付かせる。このことが、次項の「活動例」にある「ステップ1」で表現する内容の伏線となる。

(3) 自分の考えなどを表現する活動例

【ステップ1】

自分も基金の援助で夢を実現できた子どもの一人だと仮定して、クリスに手紙を書く。(30語程度)

*以下の点に注意しながら書かせる。

- ・なぜ自分の夢が実現できたのか。
(上記「発問例」で示した内容を想起する。)
- ・夢が実現できて何を考えたか。
- ・今後どんなことをしたいか。



【ステップ2】

生徒同士でお互いの手紙文を読み、クリスになったつもりで相手に返事を書く。(30語程度)

*以下の点に注意しながら書かせる。

- ・自分の夢が実現したときの気持ち。
- ・今後相手にどんなことをしてほしいか。



【ステップ3】

「自分は他人のためにどんなことをしたいか」を書く。(30語程度)



【ステップ4】

ステップ3で書いた、ある生徒の英文を取り上げ、クラス全体で読み、質疑応答や意見交換をする。また、英文としてよりよいものとなるように推敲する。(活発な問答となるための支援として教師も適宜質問する。)

「ステップ1」では、善意に助けられた人の気持ちを考えることになり、

「ステップ3」での自己表現の内容を考える伏線となる。また、「ステップ2」でクリスになったつもりで友人の手紙に返事を書かせることで、生徒間の双方向のインタラクションを促すことになる。

さらに、「ステップ4」で、ある生徒の英文をクラス全体で読むことで、生徒は他の生徒の多様な考え方に触れ、知的好奇心を喚起することになる。その内容について英語で簡単な問答をさせれば、「読むこと」と「話すこと」との技能統合につながる。

このように、教師が周到な教材研究を行い、その上で「読むこと」に絞り込んだ指導ではなく、教材の内容について生徒の深い思考を促したり、生徒の考えなどを表現させたりする工夫を行えば、4技能の統合的な活用につながる。このような指導を通して4技能を総合的に育成することが大切である。

ー引用・参考文献ー

- 岡部幸枝・松本茂編著『新学習指導要領の展開』2010, 明治図書
- 門田修平・野呂忠司・氏木道人編著『英語リーディング指導ハンドブック』2010, 大修館書店
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編』平成22年
- 英語教育5月号, 2009, 大修館書店
- 英語教育4月号, 2010, 大修館書店
- 指導資料 英語第68号 平成22年10月
鹿児島県総合教育センター

(教科教育研修課)